

◆【海員組合担当支部へようこそ】 三崎支部の紹介

三崎支部の目の前に広がる三崎港は、東京湾の玄関口となる三浦半島の先端に位置し、天気の良い日は美しい富士山が遠くに見え、古くから遠洋マグロはえ縄漁船の基地として栄えた港町です。三崎支部は、昭和54年に地元の「三崎船員組合」と大同団結し、現在、担当している会社はすべて水産関係の会社です。漁業種は、遠洋マグロはえ縄漁船、海外まき網漁船、漁業取締船、メロはえ縄漁船、カニ籠漁船、近海マグロ漁船などです。厳しい漁業情勢が続いていますが、労働条件の改善だけでなく、将来に向けた後継者の確保・育成を目標に取り組んでいます

三浦海岸桜まつり

三浦海岸祭りは、早春の三浦を彩るイベントとして知られ、濃いピンクの河津桜が約1000本、駅前から小松ヶ池公園に通じる通称「桜ロード」を中心に楽しめます。この桜並木は三崎口駅まで続き、早咲きの桜も植えられているので、一足早い花見を楽しむことができます。

城ヶ島灯台

城ヶ島西端の標高30mの崖上に建つ灯台で、その歴史は古く、1870年（明治3年）8月に初点灯し、わが国の西洋式灯台としては、5番目に造られました。その後、関東大震災によって灯台は倒壊し、現在の灯台は1926年（大正15年）に再建されたものです。

馬の背洞門

自然が作った海蝕洞門で、長い年月をかけて波浪、雨風などに侵食されてこのような見事な形となり、高さ8m、横6mで地元の人からは「めぐりの洞門」「眼鏡の洞門」と呼ばれています。

北原白秋詩碑

「雨はふるふる城ヶ島の磯に 利休鼠の雨がふる」帆型の自然石に白秋の自筆の文字を刻んだ詩碑は、彼の没後、昭和24年に建立されました。

安房埼灯台

神奈川県立城ヶ島公園は、太平洋が一望できる自然豊かな都市公園で、2020年3月に安房埼灯台がリニューアルし、とんがり屋根の灯台として生まれ変わりました。